

コロナ禍への対応(Ⅰ)

休校中には

横浜、川崎をはじめ各市町村教育委員会は、5月25日に6月1日より小中学校を再開せると発表しました。当初は分散登校、時差登校などの段階的な再開を経て、多くの中学校が6月15日から通常登校になりました。通常授業になって1ヶ月半が経ちましたが、各中学校は夏休み期間の短縮、土曜授業、夏休み中の補習講習などによって学習の遅れを取り戻す工夫を行っています。

7月22日の1日の感染者数は全国で796人、過去最多となり、23日には東京都で初めて1日の感染者数が366人を確認し、全国の感染者も981人となり、2日連続で1日当たりの感染者数の最多を更新しました。22日以降、各地で過去最多の感染者が確認されています。現在、第二波到来を思わせるような感染者数になっています。コロナ感染拡大のなか、22日より「Go To キャンペーン」は開始され、感染者の増加が危惧されています。

6月に学校再開が始まり、そのようななか児童・生徒の感染者が全国で確認されています。市内、県内の児童・生徒にも感染者が確認されています。その感染経路は家族内感染であり、家族のなかに感染者が出て濃厚接触者となり、PCR検査の結果、感染と確認されています。いまや、感染経路が不明なケースも多く、施設や大学内でクラスターが発生したことによる感染者数が増えています。病院や福祉施設外の感染は、同僚と仕事帰りに飲み会を行ったり、大学生たちがカラオケや夕食会を行ったり、舞台上で役者や歌手の近距離で演技や歌を観聴したりして、飛沫感染することが多いようです。いまや感染経路で一番多いのは飲食時の会話による飛沫感染ではないかと言われています。

コロナウイルスの一般的な感染経路には、接触感染（粘膜感染）、飛沫感染、空気感染（飛沫核感染）、媒介物感染があげられます。特に、マスクをせず、大きな声で話したり、歌ったりすることは飛沫感染、飛沫核感染に繋がります。食事中や下校時の会話にも気をつけてください。休業から学校再開、営業再開がなされ、いまや感染防止策も「自粛から自衛」の段階に入っています。外出する時も、いま行かなくてはならないのか、よく考えてください。自分で感染リスクから身を守ってください。自分、大切な家族、良き友を守るためにも健康管理に努めてください。

3月2日から6月1日までの休校期間、本校の取り組みについて、校長通信『清陵』の第42号、43号AB版ともに「再開への軌跡」という題で休校中の問題点や、その対応について記しています。是非、一読していただければ幸いです。

本校が最初に新型コロナウイルス感染防止のための対策を、具体的に取ったのは1月中旬でした。本校には在県外国人特別募集で入学した生徒が在籍しています。生徒のなかには中国の春節に、中国を訪れる生徒がいました。また、この時期に家族や親族が来日するという生徒もいました。そこで感染症対策に関するプリントを生徒に配付したことが始まりです。

この後、日本において新型コロナウイルス感染が拡大し、2月27日、新型コロナウイルス感染症対策本部の会議後、安倍首相が全国の学校に臨時休校を要請しました。3月2日より本校は休校となり、神奈川県は6月1日に学校再開になるまで3ヶ月間も休校となりました。その後、7月13日より時差通学による通常登校となり現在に至っています。学校再開までの課題は各校で異なると思いますが、私が学校再開までに主な課題と感じたことは、次のような事でした。

- ・休校中の生徒は規則正しい生活が送れているのか
- ・生徒との連絡手段をどのようにとればよいのか
- ・課題をどのように発出し、回収すればよいのか
- ・学習の遅れをどのように埋めるのか
- ・自校のICT環境で、どの程度遠隔学習を行うことができるのか
- ・ネット上の情報管理はどのようにすればよいのか
- ・成績をどのようにつけることができるのか
- ・PTA総会をどのように開催することができるのか
- ・体育祭、文化祭、修学旅行等の学校行事を中止するのか、延期するのか
- ・再開後、生徒達は心身共に健全な高校生活を送ることができるのか

これらのなかでも、私が一番懸念していたことは、学習の遅れについてでした。学習の遅れは、生徒の進路保障に関わる事だからです。5月16日に39県で緊急事態宣言が解除され、岩手県、青森県、鳥取県を始め39県は次々と学校を再開していきました。このことは学習の進捗状況に地域差が出ると感じました。本校の生徒の多くは首都圏の大学や専門学校に進学しますが、首都圏の学校は日本全国から受験生が集まってきます。学校再開のタイムラグは進路指導上の大きな問題であると考えました。

そこで生徒一人ひとりに、休校期間中、学習アプリの課題や送付された課題をきちんと家庭で学習させ、少しでも学習の遅れがでないように努めました。さらに、本校は生徒に対して4月当初から提示された課題が成績に入ること、学校再開後に直ちに課題テストを実施することを示しました。また、classroomを用いてホームルームを8時40分から実施したのも、規則正しい生活を維持させようとしたからです。

そのような考えのなか、上に記した課題への主な対応は、次のとおりです。

- メールやホームページ、学習アプリの機能、電話、訪問等による生徒への連絡・伝達
- 学習アプリのアンケート機能を用いた健康観察
- 学習アプリを用いた学習課題の提示
- 紙媒体の学習課題の送付・回収
- 授業の動画配信開始
- classroomを用いたホームルームの実施
- PTA総会の紙面総会による開催
- 3密を避けることができないと判断し、体育祭・文化祭を中止
- キャリアアドバイザーによる進路相談、スクールカウンセラーによる相談